

# 担い手組織の経営安定と特色ある米づくりによる 稲作経営の安定 ～つくばみらい市谷和原地域～

谷和原地域協業・営農組合連絡協議会（9 営農組合、うち農業法人 5 組合）は、つくばみらい市谷和原地域水田の約 3 割を担っており、経営規模が 50ha 超の組合もあります。付加価値の高い米づくり（菜の花米）やオーナー制度、省力・低コストの米づくりを展開していますが、組合員の高齢化や分散錯圃に陥っており、省力・低コスト栽培技術の確立や水田の面的集積が課題となっています。

## ● コシヒカリオーナー制度の取組み ●

つくばみらい市産米の PR や販促活動としてオーナー制度に取り組みました。タウン誌等に掲載し地元や東京からの消費者を募り、農業体験の場を提供しました。この米づくりは菜の花を播種して田植前にすき込み、化学肥料の削減やトラクターにチェーンを装着しての除草など環境にやさしい工夫をしました。普及センターは営農組合には技術支援、消費者には農作業の仕方などを支援しました。



オーナーによる田植作業の様子



田谷川土地改良区での研修会

## ● 先進事例研修会（田谷川地区） ●

平成 22 年 2 月 18 日に筑西市において転作麦のブロックローテーションに取り組むなど、地域ぐるみで水田の面的集積を推進している田谷川土地改良区の土地集積の取組みについて研修しました。普及センターでは、つくばみらい市における水田の面的集積の推進に資するものと考えて、営農組合や市役所に提案して実現しました。

## ● 水田の面的集積の推進 ●

平成 21 年 12 月 15 日につくばみらい市役所にて「農地の面的集積」というテーマで研修会を実施しました。中央農業総合研究センターの平野信之研究員から各地の取組み事例や集積方策について講話を頂き、普及センターからは各営農組合、市役所と協力して作成した水田マップ（各組合の借地・作業受託を表示したもの）の説明を行うと共に水田の面的集積方策について提示しました。



水田の面的集積に関する研修会